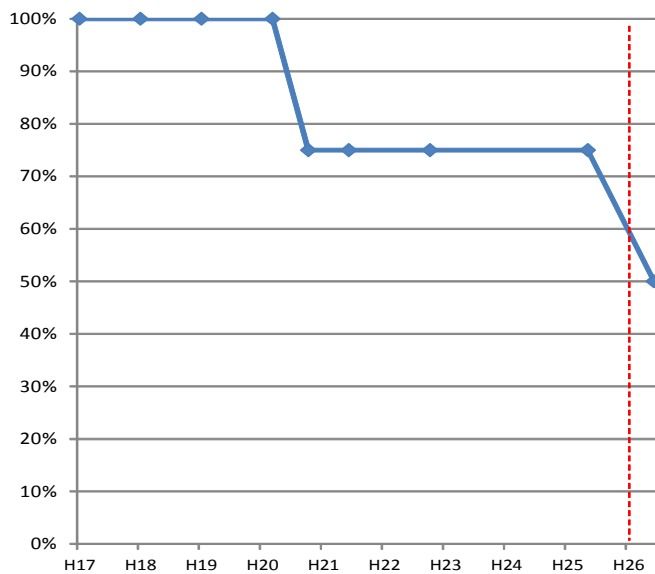


樹種名	クマシデ	
科 目	カバノキ科	
学 名	<i>Carpinus japonica</i>	
分 布	クマシデは本州・四国・九州に分布し、国外では朝鮮半島、中国の日当たりのよい山地に自生し、暖温帯上部から冷温帯に分布する。	
樹木特性	陽樹であり、低地から山地の落葉樹林内に生育し、特に二次林に多い。 伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約20 cm未満で萌芽本数は10本程度である。	
用 途	公園樹、家具・器具材、薪炭材、しいたけ原木として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	8本 (他樹種との混植)	
特 徴	【樹 形】 落葉高木である。谷筋から尾根筋まで生育範囲は広い。その高さは10~15mほどになる。 花期は4月から5月ごろで雌雄異花。小苞(しょうほう)が重なり合った花穂の形が独特である。10月から11月に長さ4~5cmの果実を付ける。 葉は互生し長さ6~11cmで細長く、比較的大型。側脈が明瞭でたくさんあり、15~24対もある点が区別点のひとつであり重鋸歯がある。同属のイヌシデやサワシバ、近縁のヒメヤシャブシなどと、葉が似ている。側脈の数や、葉の形、鋸歯の形などで区別する。3月の中旬ごろから4月にかけて、枝先に新葉の展開と同時に長い尾状花序を形成する。夏には長さ5cmほどの特徴ある果穂を下垂させる。 材は堅いため、家具材・建築材・農具の柄などに用いられる。樹皮は若木で平滑だが、皮目が縦に並ぶ。老木になると、黒褐色で浅く縦に裂け、剥がれる。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後は病虫害等は見られなかったが、植栽後4年目に一部枯死が発生した。植栽から8年を経過した樹高は4m程度となっており順調に生育している。	
被 害	野兎・鹿の被害は特に無かった。 植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。(延べ駆除本数：7本)	

クマシデ 現存率



【現存率】

植栽後、原因は不明であるが 3 年目に枯死（2 本）が発生したが、その後の枯死は見られない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 50.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

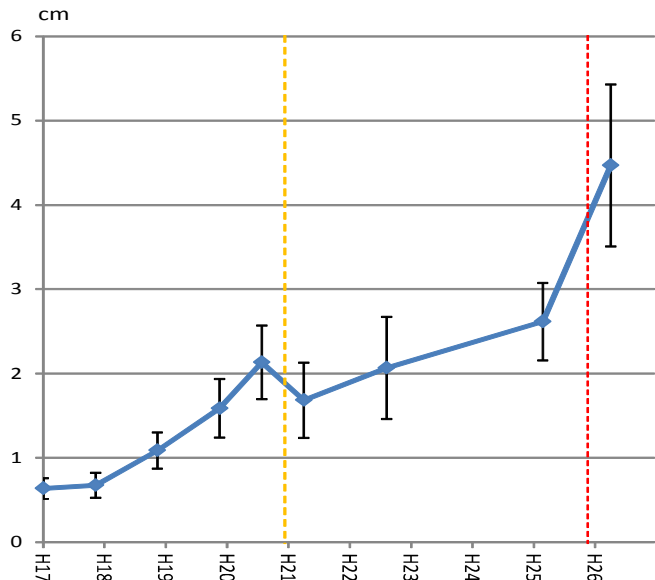
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 4.47 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

クマシデ 根元・胸高直径



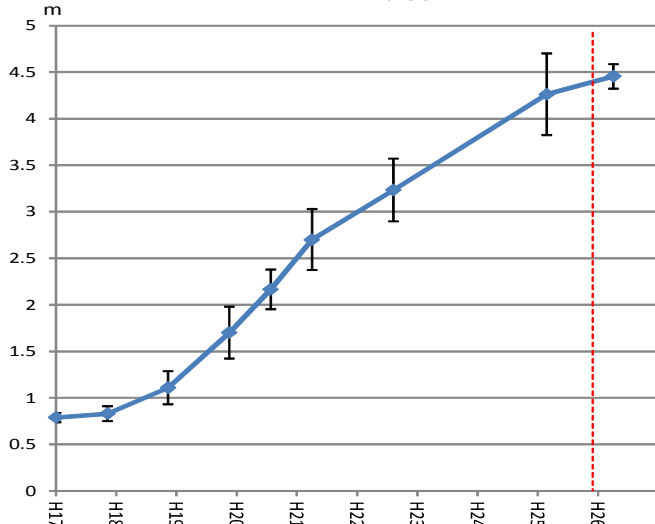
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.45m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

クマシデ 樹高



《プチ情報》

材が堅いのでカタシデの別名もあるとのこと、成長速度は遅い。